

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370101210		
法人名	株式会社 グループホーム		
事業所名	グループホーム吹上の杜		
所在地	名古屋市千種区小松町7丁目14番地の1		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2370101210-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2370101210-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

終末期を迎えるその時まで、できる限りトイレで排泄を行って頂けるように、下肢の筋力維持、筋力強化をできるような工夫をこらした体操を行っている。

隣りに座ることが「介護」であり、食事介助や排泄介助等を「介護」とは呼びたくない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤続年数が長い職員が多く、今年度は更に新入職員が加わり、職員の配置が充実した。「隣に座ることが介護」であるとの考えから、業務から離れて利用者に寄り添う「フリーの時間」が確保されており、人員が増えたことからその充実度は増した。リビングから聞こえる会話や笑い声は絶えることなく、利用者が日々楽しく暮らしていることが想像できる。

身寄りの無い利用者が多いことから、ホームで最期を迎える人が殆どである。経験豊富な職員が多いことはその点においても大いに寄与し、安らかに送り出すことができている。利用者の尊厳維持の観点から、「最期までトイレで排泄」とのホームの拘りも浸透し、多方面からホームの一体感が感じられる。職員の連携の下、利用者一人ひとりを尊重し、個性を重視した支援に徹している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアへつながる扉付近に会社理念を掲示し、常に見えるようにすることで緊張感を持ち、ケアを実践するように心がけている。	法人理念を常に目に付くよう掲示し、理念に基づき「安心・満足・充実」をホームの指針としている。管理者は職員が無意識に実践できるよう指導し、職員からは「奉仕の精神で取り組んでいる」との声が聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内祭りや回覧板での行事に参加させて頂き、極力交流を深めている。車椅子利用者の方が増えたことを理解してくださり、敬老会に参加できなかった利用者様へのプレゼント等を持ってきてくださる。	隣人と窓越しに会話したり、ホーム内で交流したりと、地域とは良好な関係を築いている。町内会長は力強い協力者であり、地域の情報提供や行事への参加の誘いを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが理解して頂き、ベランダ越しに声をかけてもらっている。また職員の顔も覚えて下さり、通勤や帰りに声をかけてもらうこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直接会っての運営推進会議は行っていないものの、取り組み等の資料をまとめて郵送しており、その都度ご意見を頂けるような配慮を行っている。	コロナの感染状況を見ながら、4回を書面開催、2回を対面開催とした。会議には家族が参加しており、書面開催時も議事録を送付して現状報告を行っている。家族からは、質問や意見が出されている。	会議の参加者が家族のみとなっている。行政や地域、その他の関係者など、会議メンバーの多様化を図り、ホームのサービス向上に繋げる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く、担当の方とは密に連絡を取っており、千種区以外の入居の受け入れ依頼もよく連絡をくださっており、先日も別の区からの受け入れをスムーズに行いました。	利用者9名のうち8名が生活保護受給者であることから、区の担当部署(保護係)とは緊密に連携を図り、区の職員が面接に訪れている。市からはコロナの検査キットの提供があり、支援を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は一切施錠をせず、誰でも自由に外出できるという安心感に繋がっている。また、会社全体で年2回の虐待アンケートを行い開示し、会社全体で身体拘束及び虐待の撲滅に取り組んでいる。	身体拘束を毎月の職員会議でテーマに取り上げ、利用者の行動を制限しない取り組みを行っている。ドラッグロックにも配慮し、無意識のスピーチロックは互いにその場で注意喚起を行っている。年2回の虐待アンケートは、自らを律する効果を生んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サポーター同士が言葉遣いを意識し、お互いが注意し合える環境作りをしている。また、会社全体で年2回の虐待アンケートを行い開示し、会社全体で身体拘束及び虐待の撲滅に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者様が利用中。コロナの影響で面会が制限されている中ではあるが、関係者と少しのやりとりはできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に、まず契約書類や規程等をゆっくりと目を通す時間を設けている。又、実際の契約時にも説明を行い、疑問や不安点に答えられるようにしているが、身寄りのない方はご本人に伝えてもなかなか理解をすることが難しい方もいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までは運営推進会議や面会時等に積極的に話し、意見を出しやすい環境を作ってきたが、コロナの影響もあり、なかなかお会いする機会がなく、できる方に限り、リモートでのお話をしている。	法人の方針に則り、事務室での家族面会を開始した。面会時や随時の電話で家族から質問や提案を受け、運営に反映させている。身寄りの無い利用者の身元保証人が、毎月面会に訪れるケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の見直しや入居者様との関り方については毎日のように活発な意見がでてくる。全てを受け入れることはできないものの、極力意見を反映できるような話しやすい環境を作っている。	勤続年数の長い職員が多く、日々の業務の中から様々な提案が出されている。職員意見は即座に管理者に届けられ、可能な限り即時対応している。誰もが忌憚なく発言できる土壌が育まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援制度を設けている他、年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。また、定期的に食事会を行い、話しやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会等で実践を交えた講義を行っている。教育をすることにより、教育者も再確認ができ、有効活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での委員会活動を行ったりして、施設間交流の機会を作り、意見交換やサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ずご本人やご家族様と話す時間を設け、これまでの生活スタイルや思いを傾聴し、把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近では身寄りのない方がほとんどで、ケアマネさんやケースワーカーさんから聞いた情報をもとにどのようなサービスが適正なのかを見極めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案等行っている。また、ご家族様との話し合いを通じて他のサービス(歯科、マッサージ等)利用の情報も提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別で話を聞き、好きなものを一緒に買いに行ったりして、信頼関係を築いているが、最近は車いすの方も増え、以前の頻度で買い物に行くことは減ってしまった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほんの些細なことでも連絡を取り、なかなか面会に来られないご家族の方でも、少しでも状況がわかるようにしている。また、最近ではリモートを利用し、少しでもご本人の状態や表情が伝わるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、普通だった床屋やスーパーと一緒に出掛け、懐かしむ場面があったものの、コロナの影響で出かけることもなく、たまたま通院する病院で懐かしむ程度になっている。	知人から、電話や贈り物が届くことがある。ラジオ好きな利用者は、ポータブルラジオを持ち歩き、調理好きな人は、台所仕事を手伝っている。生活保護申請の過程で身内が見つかり、交流が始まったケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入っただけのコミュニケーションを取ったり、一緒に体操、散歩を行い、入居者様同士の交流に努めている。以前は入浴も一緒にしていたが、ADLの変化に伴い、職員とのマンツーマンでの入浴をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移るといことが極稀な為、契約終了とともにご家族様とも疎遠になっている。時々近所で見かけた時はあいさつ程度は行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からお本人が望んでいること、不安に思っていることを聞き出し、職員同士意見交換を行っている。	業務から離れて利用者の隣に座る「フリーの時間」を確保しており、寄り添って話を聞くよう取り組んでいる。1対1になれる入浴介助時や夜間帯などを有効に使い、聞き取った意向は管理者に報告して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味を継続出来るような環境を維持し、出来る限り継続できるように支援しているが、ADLの低下によりできることが少なくなっている現状もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや普段の申し送りにて、日々変化する入居者様への確かな自立支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関りの中でご本人やご家族に思いや意見を聞き、それらを職員全体会議にて意見を共有し、よりよいケアに努めている。	計画作成担当者が毎月職員から聞き取りを行い、介護記録と併せてモニタリングを行っている。週1回現場に入って直接利用者の意向を探り、家族意見も取り入れながら、介護計画の見直しを行っている。	身体介護中心の介護計画になっており、利用者の意向を反映した計画にはなっていない。利用者の意向に着目した、個別性のある計画立案を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほんの些細なことでもカルテへ記載し、申し送りや連絡ノートにて意見を共有している。また、職員同士のコミュニケーションもよくできており、意思疎通がうまくいっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており、些細な体調変化も連絡しあい利用者の健康管理を行っている。緊急のご家族との外出、外泊も要望があれば臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を通して地域の行事やお祭り等に参加することはあるが、積極性にはかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が直接医師に相談することもあるが、本人が自らの状態を認識していない場合や遠慮をして何も言わないような時もある為、職員が付き添い状態報告や伝達をしている。	3ヶ所の医療機関が協力医となっており、それぞれ月2回の訪問診療がある。複数の医師の多様な意見が聞ける利点がある。看護資格のある職員のアドバイスも一助となっている。歯科医は3ヶ月毎に訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い、利用者の状態把握・ご家族との情報交換を行っている。早期退院に向けて家族、担当医師との相談に努め、退院後のケアについての情報共有も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身寄りのない方が多く、なかなかご本人のご理解を得ることが難しくなっているが、まだしっかりとした状態の内にご本人の意見を聞いておき、最期までしっかりと看取ることを行っている。	身寄りのない利用者が多く、ほぼ全ての利用者が看取り対象である。協力医の判断を仰いで状態を判断し、看取り段階となった利用者は居室に戻らず、リビングの一角に置かれたベッドで一日を過ごしている。職員も経験豊富で意識統一が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関してはマニュアルを用意し、勉強会を始め職員の周知に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や手順等のマニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行っており緊急時に職員が対応できるように努めている。車椅子対応の方が多く、年々時間がかかるようになってきている。	火災と水害を想定して、年2回避難訓練を行っている。居室が建物の2階と3階にあるため、火災時はベランダに避難するよう、消防から指導を受けている。	現在、非常用物資が1階に置かれている。水害が想定される立地にあることから、備蓄品の保管場所の検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思や気持ちを尊重し、さりげない言葉遣いで接するよう心がけている。トイレや入浴は基本的にマンツーマンで行い、支援も小声で行うようにしている。	利用者の嫌なことには触れず、羞恥心に配慮し、希望があれば同性介助にも対応している。スキンシップは大切であるが、過度にならないよう気を付けている。一人ひとりの個性を大切に、個別支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人が意見を決めやすいよう、いくつか候補を上げたり、わかりやすい声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたい場所を聞いたりし、できる限り実践するようにしているが、現状できていない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度の低い方は自己にて整容を行っている。また、介助が必要な方は一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のご希望がある場合には極力希望に副える食事を提供している。また、季節の品をだすことにより、季節感を楽しんでいる。食後は片付けを手伝って載っている。	管理者が週2回買い出しに出かけ、その日の調理担当者がメニューを決めている。利用者からリクエストがあれば、可能な限り即時対応している。利用者は、調理から片付けまで一連の工程に携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記載している。また、状態に合わせて刻んだりトミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと、週1回の歯科医による歯の観察と指導を載っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を必要とされない方でも見守りを行っている。また、排泄状況を観察、記載することにより、排泄パターンを明確にし、必要に応じて声かけを行い、失禁を減らしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間で声掛けしてトイレ誘導している。人の尊厳を大切に、「最期までトイレで排泄」の方針は職員にも浸透しており、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、バランスのいい食事や乳製品(主に牛乳やヨーグルト)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決められているが、極力利用者様のご希望に合わせている。また、希望があれば2名以上で入浴している。	利用者は、週に2～3回の入浴機会がある。1日4～5名の入浴を支援しており、基本的に一人ひとり湯を入れ替えている。希望があれば入浴剤を用いることもある。柚子湯等の季節の湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がある入居者様は、特に日中の活動を増やしている。また、座位の難しい入居者様については昼寝等おこない、無理のない生活をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはカルテで閲覧できるようにしている。また、症状の変化や改善があった場合は随時医師に報告相談、職員間で申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様、一人ひとり好きなこと、得意な事をお願いできることを手伝って戴き、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩に出かけている。外出レクとして事前に食べたいものを聞いておき、サプライズ的に外食している。その際、トイレの位置やテーブルの形状等を職員が把握し、店の人に事前に伝えている。社用車が変わったので外出も楽になった。	コロナは5類へ移行となったが、法人の方針で原則外出は控えている。徐々に再開していること、個別に近隣店舗におやつを買いに行ったり、外食に出かける取り組みを行っている。日常的には、散歩や建物外での外気浴が気分転換の機会となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にご家族様よりお小遣いとして管理者が預かり、必要に応じて使っている。利用者様本人が金銭を持つことは、トラブルになりかねないと考え所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自分で対応したり職員を交え電話をしている。また、年賀状や暑中見舞い等も書いている（必要に応じて職員が介助する）。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とフロアに花を飾っている。また、季節に応じてフロアの飾りを変え、四季を味わって載っている。	広いリビングで、利用者は日中を過ごしている。リビングの一面にはベッドが置かれ、重度化等で見守りが必要となった時に利用されている。壁には装飾や写真等の掲示は無く、普通の居間との認識である。複数人で利用できる浴室は、個浴用に改装された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士はなるべく席を近づけたり、逆に孤立しないような席の配置を考えている。日中居室で一人で過ごすことはほとんどない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族によって使い慣れた家具や小物などを持ち込んでもらっている。居室での活動の際には転倒やその他の事故につながらないようご家族様も交えて考えてレイアウトしている。	以前は社員寮であったことから、各居室は広く、それぞれにトイレやクローゼットが備わっている。建物の2階と3階にあることや生活保護受給者が殆どであるため、ベッドだけが置かれている居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下には手摺りを設置し歩行が不安定な方でも自立して歩けるようにしている。居室やトイレに表札を掲げ場所の確認ができるように工夫している。		